

## KCJS28 2016 年秋学期 日本語 D クラス (3 年生)

担任 (coordinating instructor): たんにん 中村伊都子 なかむら いつこ

オフィス/電話番号/メール: F203 (扶桑館) ふそうかん /075-251-4996/in2008@columbia.edu

オフィスアワー: 必要に応じて (事前に連絡すること)

副担任 (Sub-instructor): ふくたんにん 中田かおり なかた kn2345@columbia.edu

授業時間: 月～金 9:30-10:30 & 10:40-11:30

教室: F213

### < KCJS 全体の目標 >

The objective of KCJS's Japanese Program is to enhance the student's communicative competence and to enable professional and personal interaction with members of Japanese society in ways that are culturally readily acceptable. In particular, a KCJS student will come to:

1. Understand the intentions of others when Japanese is spoken;
2. Understand the intentions of others when written materials of various genres and media are presented;
3. Control the use of Japanese expressions, both spoken and written, in order to fit the socio-cultural settings and purposes of communication;
4. Expand the modes of communication used to include such genres as formal presentations, negotiations, projects, the organization of events, and their follow-up.

### < コースの目標と願い >

教室内での日本語学習は、アメリカにいてもできます。今、京都でしかできないこと。それは、これまでみなさんがコツコツ勉強して積み上げてきたものをコミュニケーションの目的で使い、相手と共に学びあうことです。

このコースは、学習者が京都で出会う人々と主体的に関わることを求めます。そして、その関わりにおいて四技能 (話す、聴く、読む、書く) よんぎのう を駆使することにより、総合的に日本語の運用能力を高め、日本文化理解を深めることを目的とします。一学期は、あっという間です。「一期一会」をモットーに、不思議なご縁を大切に、みんなで京都での生活を 120% 楽しみましょう!

### < 目標達成のための方法論 >

- 地域参加型プロジェクト (Community Involvement Project) ちいきさんかがた
- 個人プロジェクトとそれを通して自分が学んだことの共有 きょうゆう
- 同志社大学及び、同志社女子大のクラスの学生との協働 きょうどう
- ホストファミリーや友達、ランゲージパートナーへの聞き取り調査 ちようさ
- ゲスト講師による講義: 読んだ内容と関連のあるテーマで日本語教師以外の日本人の話聞く こうぎ かんれん
- 教師—生徒間の密なフィードバック みつ

### < 詳しい学習目標 >

1. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを精読して、クリティカルに読めるようになる。また、分からない言葉や文法があっても、文脈から意味を推測して理解を深められるようになる。
2. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを速読 (rapid reading i.e. scanning and skimming) そくどく して、必要な情報や要点を取ったりできるようになる。

3. 多読 (extensive reading) を通して、日本語のテキストを楽しく読めるようになる。また、短い間にたくさんの量が読めるようになる。
4. 日本語でのコミュニケーションにおいて、分からないことを質問したり、自分の理解が正しいかどうか確認したり、時には推測すいそくによって補おぎないながら、理解を深められるようになる。
5. 詳しく説明したり、描写びようしゃしたり、説得力せつとくりよくのある意見を述べたりできるようになる。
6. 相手に伝わる文章を書けるようになる。
7. 映像作品や話題のニュースを理解し、それについて話したり、意見を述べたり聞いたりできるようになる。
8. 漢字熟語じゆくご こうせいようその構成要素から、熟語の意味が推測できるようになる。
9. 相手や場面にあわせ、適当な話し方ができるようになる。
10. 読み教材、聞き教材や、『Kanji in Context』から日常語彙ごい ちゆうしやう、抽象語彙、漢語彙、文法・表現を増やす。
11. 独学の仕方を身につける。

### <小テスト>

1. ほぼ、毎日9時半から9時40分の間にクラスで行なう。遅刻ちこくをしても時間の延長えんちやうなし。
2. 漢字テスト：単語テストがない日は、毎日「意味」と「読み&書き」の小テストを受ける。  
『Kanji in Context』から赤字しゆくだいのものが出題される。
3. 漢字まとめテスト：漢字テストの3、4つ分から出題される。
4. 単語テスト：クラスで読んだ読み物から出題される。

### <しなければならないこと、してはいけないこと>

1. 授業の前
  - ・ 必ず予習をして、何が分からないかを確認しておくこと。
2. 授業中
  - ・ 毎日、積極的せつきよくてきに授業に参加する。
  - ・ 予習をして分からなかったところを質問する。
3. 授業の後
  - ・ 授業で勉強したことを復習する。特に予習で分からなかったところが分かるようになったか確認かくにんすること。
  - ・ プリント教材が多いため、100円ショップでフォルダーを買って、整理せいりすること。
4. 遅刻ちこくと欠席けっせきについて
  - ・ 欠席する時は、担任たんにんに電話かメールで必ず連絡れんらくすること。075-251-4996/in2008@columbia.edu
  - ・ 遅刻と欠席は、授業ごとに数える。(例 1日休んだら2回欠席)
  - ・ 欠席した場合、出席点、参加点が0点になる。(ただし、学期末に点数の低い順てんすう じゆんから6回分の出席点・参加点を落とす。)
  - ・ 1分でも遅れたら、その授業は「遅刻」の扱いになり、出席点・参加点が下がる。
  - ・ 20分以上遅れたら、「欠席」の扱いになり、出席点・参加点が0点になる。
  - ・ 授業を七回以上休んだ場合は、所長しよちやうに書面で理由しよめんを説明すること。
  - ・ 休んだ日の小テストは後で受けることはできない。試験は、やむをえない事情じじやうで欠席した場合だけ、後で受けることができる。
  - ・ 休んだ日の授業の内容や次の日の宿題などについて、自分でクラスメート／先生に聞く。

## 5. 宿題

- しめきりまでに宿題を出す。遅れた場合はチェックするが、点数はもらえない。
- 明らかにきちんと宿題をしていない場合は、「incomplete」と見なされ点数はもらえない。
- 大切なポイントで間違いが多い場合は、やり直しをしなければならない。試験日までにやり直しをしなければ7割しか点数をもらえない。
- 習ったこと（漢字、言葉、文法表現等）を積極的に使うこと。

## 6. 学生としての責任

- いつでもどこでも誰とでも日本語を使う。扶桑館の中で英語を使わない（日本語だけルール）。
- **\*注意\***日本語以外で話していると注意を受け、注意が多い学生は、成績が1ランク下がる。
- 書く時、話す時に、習ったことを積極的に使う。
- 指摘された間違いやくせ（発音、漢字の書き方、文法など）を直す。何度も同じ間違いを注意されないようにする。

## 7. KCJS のルール

- 宿題は、自分一人の力ですること。他の人のを見たり、他の人に直してもらったりしてはいけない（ただし、ピア・エディティングは除く。）
- 他のルールに関しては、このページを読むこと。 <http://www.college.columbia.edu/ccschonorcode>
- 教室では食べ物を食べない。

### <成績うちわけ>

授業 (30%)	出席・参加（準備、積極性）	15%
	宿題	15%
小テスト・試験 (50%)	小テスト（漢字、単語）	15%
	試験1、2、3	35%
プロジェクト (20%)	地域参加型プロジェクト（CIP）	10%
	プロジェクト・期末発表	10%

100 – 94.0 A	93.9 – 90.0 A-	89.9 – 87.0 B+	86.9 – 83.0 B
82.9 – 80.0 B-	79.9 – 77.0 C+	76.9 – 73.0 C	72.9 – 70.0 C-
69.9 – 67.0 D+	66.9 – 63.0 D	62.9 – 60.0 D-	59.9 - F

## 個人プロジェクト

- ・自分の興味や目標に合わせて、各自課題を決めて、一学期を通して自分のペースで取り組む。
- ・隔週30分の個人指導しんちやくの際、進捗状況を報告したり、質問したりする。
- ・期末発表として、課題を通して学んだことをクラスメートと共有する。

## 期末発表

目標：クラスメートに自分が知っていることを、レジメを使って分かりやすく教える

発表の内容：自分が個人プロジェクトを通して学んだこと（①か②のどちらか）

①一般的なこと（例 自習をする上で効果的なストラテジー、日本語と英語の表現方法の違い、翻訳する上での難しさ、ロールプレーゲームの特徴 等）

②特定のこと（例 擬音語・擬態語ぎおんご ぎたいご、役に立つ文法・表現、英語に翻訳できない日本語、話し言葉特有の表現 等）

課題：1) 発表の準備

- ・発表の内容を考え、まとめる（原稿を書きたい人は書いてもいい）
- ・レジメを作る（注意：今学期習った文法をできるだけ使うようにすること！）

発表の内容の評価基準ひょうかきじゆん（全体の40%）：

内容の濃さ（70%）			文法使用度	構成の分かりやすさ
学ぶ事がある	例がたくさん挙げられている	詳しく説明されている		
30%	20%	20%	20%	10%

課題：2) 発表20分しつぎおうとう（質疑応答を含む）

- ・原稿を読まないで話す（インデックスカード使用可）
- ・アイコンタクトをし、聞き手とコミュニケーションを取りながら話を進める
- ・大きい声で分かりやすく話す
- ・どんな質問をされるか予想して、上手に答えられるように準備しておく
- ・発表内容に関する質問を必ず1つ聞く

評価基準：

発表の内容		40%
レジメの分かりやすさ		5%
発表の準備	個人指導の準備	5%
	リハーサルの準備	5%
発表の質	アイコンタクト	5%
	コミュニケーションが取れたか	15%
	分かりやすさ	15%
<small>しつぎおうとう</small> 質疑応答	上手に質問ができた	5%
	上手に答えられた	5%

かだい

- 課題の流れ：1) 発表の内容の提出（11月28日）  
2) 発表の個人指導／授業時間を使って1人30分（11月30日）  
3) レジメ下書きの提出（12月5日）  
4) 発表のリハーサル&レジメ下書きやり直しの提出（12月7日）  
5) 期末発表&レジメ最終稿<sup>さいしゅうこう</sup>の提出（12月8日）

## 発表の内容

下の1)と2)の以下の①～②の問いの回答を<sup>かじょうが</sup>簡条書きで書く。

提出日：11月28日（月）

### 1) 発表のテーマ

①自分が個人プロジェクトを通して学んだことで、クラスメートに知ってもらったら役に立つだろうと思うことは何か。（1か2のいずれかを選ぶこと）

#### 1. 一般的なこと

（例 ロールプレイングゲームの特徴）

- どんな特徴を挙げるか（他のジャンルのゲームとの比較）
- それぞれの具体例
- 具体例を見せる手段

あるいは

#### 2. 特定のこと

（例 役に立つ文法・表現）

- どんな文法と表現を扱うか
- それぞれの例文
- どんな文法・表現練習をするか

②なぜそれが役に立つと思うか。